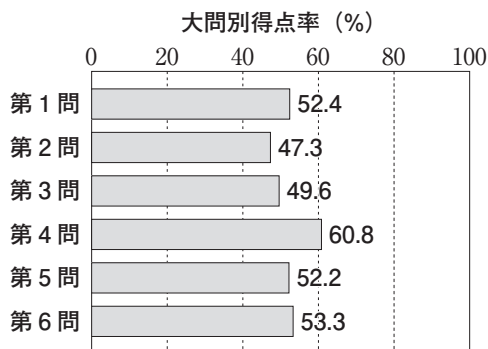
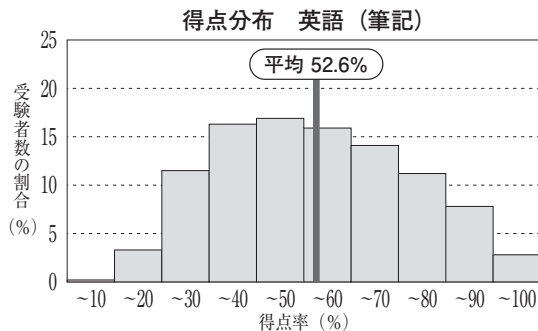


英語 (筆記)

ウィークポイントを把握し、今後の学習につなげよう。

I. 全体講評

全国統一高校生テストは毎年実施されるセンター試験の内容とレベルに準拠している。今回の受験学年の平均点は105.1点で、まだまだ十分とは言えない結果であった。大問別の得点率では、40%台後半から60%強までと大問ごとにそれほど大きな差はなかったが、最も得点率が低かったのは第2問であった。ここでは短い英文でありながら、文法だけでなく、語彙も含めた総合的な力が試されている。その意味ではまだまだ改善の余地が多いようだ。また、特に第6問では無回答率が5%弱と依然として高かった。最後のほうは時間的な余裕を失っていたということであろうが、これは英文を読む(そして、もちろん理解する)速さと関連し、読む速さは語彙力と関連している。毎年のごとであるが、この問題は時間とともに徐々に解消されていくであろう。しかし、そのための積極的な努力は不可



欠である。まだ時間は多く残されているので、多読を通じて着実に語彙のレベルアップをしていこう。

II. 大問別分析

第1問 発音・アクセント

注意したいカタカナ英語との違い!

第1問の得点率は52.4%で、約5割だった。このうちAの発音問題の平均が42.0%、Bのアクセント問題は60.1%と、発音問題の方がかなり低かった。小問ごとの正答率を見ても、Aではすべて50%に満たなかった。Bにも40%台の小問が2つあったが、他の2問が70~80%台とうまくカバーできていた。今回最も正答率が低かったAの問1は基本的な母音字eの発音を問うものであり、正解の③nephewのみが短母音、他が長母音であった。ここで紛らわしいのは②mediaで、日本語化した「メディア」と混同しやすい。発音・アクセント問題では、このようなカタカナ英語に変化した単語が思わぬ落とし穴になるので、英語本来の音声を見失わないように、地道に音読する習慣を取り入れてほしい。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

文法・語法の知識と応用力を高めよう!

第2問の得点率は47.3%で、今回の大問別では最も低かった。その内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が57.4%、Bの整序問題が48.4%、Cの応答文完成問題が33.0%と、BとCがやや不振であった。小問別の正答率を見ても、Bの問1のみが70.9%と好成績だったほかは、全体的に20~30%台が多数を占めていた。どちらのパートでも文法(構文)・語法の知識、応用力が鍵を握る。それはBの単語レベルでも、Cの語群レベルでも同じである。特に文法の知識は読解力の基礎でもあるから、ここで不安を抱えるところがあれば早いうちに徹底復習しておこう。

第3問 文脈把握 (文削除・要約)

文の流れをしっかりとつかもう！

第3問の得点率は49.6%であった。内訳では、Aの不要文削除の問題が46.9%、意見の要旨を選ぶBが51.8%と、さほど大きな差はなかった。小問別正答率に関しても、全問が40%台から50%台の範囲に収まっていた。特別不出来な箇所もなかったが、全体としてはいくらか物足りない感じが残る。第3問では、センター試験特有の出題形式を用いているが、どの形式であろうと試されているのは文脈把握力である。文の流れをつかむこと、どこに重点が置かれているかを見極めることの2点が最も重要である。本番で高得点を得るためにも、センター試験の過去問及びセンター試験本番レベル模試の出題例を参考に、この形式には十分慣れ親しんでおこう。

第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り設問に応じた精読と文脈把握を！

第4問の得点率は60.8%で、今回のすべての大問中最高であった。グラフを含む説明文を素材としたAは62.2%、広告文書を素材としたBは59.4%と、大きな差は見られなかった。小問別正答率を見ると、最高がAの問2の79.6%、最低がBの問3の43.5%だった以外は、いずれも50%台と60%台なので、全体的にまずまずのレベルで安定していたと言えるだろう。Aの問4は本文の展開を予測させるもので、この大問ではここ4年続く設問である。問2のようなグラフの内容に関連する問題では細部の厳密な読み取りが求められるのに対し、こちらでは論理的な流れと重点を把握することが必要である。また、Bの問2は金額計算を伴う問題で、やはりこの大問の特徴をなすものである。戸惑いを感じる人は、センター過去問やセンター試験本番レベル模試を通じて対応力を身につけていこう。

第5問 物語文の読解

説明文とは違う難しさがある！

第5問の得点率は52.2%で、平均的な成績であった。小問別に見ても、正答率にして40%台半ばから60%強の範囲内に収まっていた。特筆して注意しておくべき箇所はない。ただ、一般論として、ここではストーリー性のある素材文を用いているため、主観的な観察や意見が述べられることが多いので、説明文に比べ、筆者の言いたいことが多少つか

みづらいケースもある。この種の文章では、想像力を働かせて状況を把握する必要もあることを念頭に置いてほしい。特に、最近のセンター試験では、今年のSF的な文章や突飛な設定のストーリー展開も見られるので、このことは十分に注意しておきたい。

第6問 説明的文章の読解

全問解答を目指してがんばろう！

第6問の得点率は53.3%で、やはり平均的であったが、この大問としては悪くなかった。小問別の正答率も、40%台半ばから70%弱とバランスがとれていた。第6問では、各段落で述べられている論点の中心が何かを意識しながら文章を読む必要がある。それほど難解な文章ではなく、段落ごとの内容は割合にはっきりしているの、十分な時間があれば正解を得るのは難しくない。最後のほうは若干無回答率が高くなったが、全問を解くだけのスピードを身につけるために、今後も引き続き語彙力を強化するとともに、第6問に至るまでの解答効率を高めるように努力しよう。そうすれば、この大問の得点率も自然と上がっていくものと期待される。

Ⅲ. 学習アドバイス

全国統一高校生テストは、センター試験の形式や難度を踏襲して作られている。受験生の諸君にとってはこれまでに養ってきた英語の実力を測るのに絶好の機会となったことだろう。来年度のセンター試験に向けて、各自が最高の準備をするために、これからの半年あまりをできるだけ有効に使ってほしい。センター試験に限らず、英語の試験に対処する能力は、どれだけ文法や語彙などのツール(暗記項目)を身につけ、多読・多解の経験を積むかにかかっている。これらは互いにリンクしているが、中でも語彙力と多読が相互補完関係にあることは明らかであろう。したがって、過去のセンター試験の問題はもちろん、レベル的にも内容的にも近い他の問題にあたるなどして、できるだけ多くの英文に触れるべきである。また、文法問題や発音・アクセントの分野は、短期間でも集中的に取り組めば、かなりの成果を得ることができる。熟語についても同様である。各自が自分に足りないと思われる分野を優先して補強に努めてほしい。